

2004年6月17日

会社名 株式会社 大丸  
 コード番号 8234  
 代表者名 取締役会長 奥田 務

## 2004年5月度 大丸 連結営業報告

### 1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	5 月 度	3 ~ 5 月 累 計
百貨店業	1.3	2.1
スーパーマーケット業	2.9	3.6
卸 売 業	2.5	0.9
その他事業	0.1	1.8
連結合計	0.9	1.7

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

### 2. 百貨店業 売上高概況

#### 1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	5 月 度		3 ~ 5 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	2.1	5.6	2.1	4.4
梅田店	3.0	3.3	2.9	5.0
東京店	2.8	4.7	1.5	1.3
京都店	3.1	12.8	1.4	13.2
山科店	1.9	-	2.1	-
神戸店	5.1	2.6	2.2	2.3
新長田店	12.3	-	10.4	-
須磨店	10.5	-	6.1	-
芦屋店	5.1	-	2.0	-
札幌店	2.5	17.2	3.0	33.4
直営10店舗計	0.0	2.1	0.9	7.6
博多大丸	6.4	2.0	7.0	0.3
下関大丸	7.9	2.5	6.6	3.3
高知大丸	2.8	3.8	3.2	1.1
今治大丸	5.3	6.8	4.7	5.4
百貨店業合計	1.3	-	2.1	-

(注) 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店計である。

#### 2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	5 月 度	3 ~ 5 月 累 計
紳士服・洋品	0.6	0.3
婦人服・洋品	0.2	0.9
子供服・洋品	2.4	3.4
その他の衣料品	0.2	2.4
衣料品計	0.1	1.0
身の回り品	1.2	1.5
家具	1.1	1.4
家電	91.6	40.1
その他の家庭用品	4.2	6.5
家庭用品計	1.2	1.9
食 料 品	0.0	0.2
食堂・喫茶	6.8	10.1
雑 貨	4.2	0.1
サ ー ビ ス	6.4	7.8
そ の 他	11.6	8.7
合 計	0.0	0.9

### 3. 概況

#### 1) 百貨店業

- ・5月の百貨店業の売上高は、直営店是对前年0.0%となったが、関係百貨店が全般に不調で、トータルでは対前年1.3%減であった。
- ・直営店の店別売上高は、京都店、神戸店、札幌店は前年を上回ったが、その他は前年を下回った。京都店は依然として食品フロアの改装効果が持続し、売上・入店客数とも増加。神戸店は自社カード顧客向けの販促強化が奏効し、大きく伸ばした。札幌店はファッション部門が全体の売上げを牽引した。一方、梅田店は前年の開店20周年記念販促効果の反動が響いた。
- ・商品別では、婦人服は特選ブランドのほか全社で取組んだ「Tシャツコレクション」やジャケットなどカジュアルのトップスが好調。ハンドバッグ、化粧品、洋品なども活発に動いた。紳士服は3、4月に比べビジネスは不調であったが、ヤングアダルトファッションが伸び、紳士服全体の売上を押し上げた。その他、大型液晶デジタルテレビが好調を維持したほか、高級絵画にも動きが見られた。
- ・関係百貨店では、博多大丸は大型SCを含めた競合が熾烈化する中、入店客数は前年を上回り、食品は前年をクリアしたものの、衣料品を中心に苦戦し、トータルでは6.4%減となった。

#### 2) その他

- ・スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、関東地区では0.2%増と前年を上回ったものの、関西地区が7.0%減となり、トータルでは2.9%減となった。
- ・卸売業の大丸興業の売上高は、畜産品や繊維は好調であったが、農水産品や産業資材の不振が響き、対前年2.5%減となった。
- ・その他事業では、建装事業の大丸装工や人材派遣会社のディンプルの売上げが寄与した。

お問い合わせ先	株式会社	大丸	グループ本社	広報・IR部
		TEL	06-6281-9002	
		FAX	06-6245-1343	